

笑顔の ひろば

vol. 31

2015年冬号

川崎協同病院
広報誌

<http://www.kawasaki-kyodo.jp>

第3回協同地域健康まつり

地域の公園ではじめて開催～区役所の後援も得て、500人余が参加



来場者全員でのラジオ体操



うさぎめざしてパン食い競争

第3回協同地域健康まつりが10月25日に行われました。当日は来場者数が500人をこえ、笑顔のたえない1日になりました。

今回のまつりは、2つの点ではじめての試みがありました。まず会場を川崎協同病院、協同ふじさきクリニックから、地元の藤崎第4公園へ移しました。当日は好天にも恵まれ、また土や緑や子供たちの声に包まれ、とても晴れやかな空気が公園いっぱいに広がっていました。子供たちのパン食い競争では、一生懸命にパンに向かう姿がとても楽しげでした。

2つめは川崎市川崎区役所の後援を得たことです。そのおかげで公園を使用できたことはもちろん、川崎市健康福祉局のマスコット「うさぎ」も活躍してくれました。地域の福祉団体や事業所の協力で飲食屋台、模擬店も出店しにぎわいました。



健康相談をうける田中久善院長



実行委員長あいさつ
ふじさきクリニック竹内啓哉所長

特設ステージでは、朝1番に来場者全員でのラジオ体操からはじまり、太鼓パフォーマンス、ライブ演奏、地域組合員の活動発表などが行われ、見ている人とともに盛り上がりました。



オープニング太鼓「笑鼓楽」

地域まるごと健康づくりとして行われた健康チェックでは、今年は血圧測定、体組成計の他に足指力チェックと歯科による咀嚼力チェックを加え、医師をはじめとする医療従事者が結果に対してアドバイスをを行いました。医療相談には96人、子供体力測定コーナーには39人と、幅広い年齢層の人たちが参加しました。健康づくりを通じて地域とつながることができました。

まつりの実行委員は、当日までは職員、組合員さんと何度も会議を開いたり、打ち合わせを重ねたこともあり、当日は充実した日々となりました。行政の力も借りてより一層地域と一体となったまつりとなりました。

医事課 玉沖 聖

トピックス TOPICS

ホームページをリニューアル ～スマートフォンにも対応～

当院のホームページは、以前は「更新作業はホームページ業者に依頼」、「旧型ディスプレイの画面サイズ」、「スマートフォンには未対応」というものでした。加えてホームページ業者の都合で更新作業が継続できなくなったため、広報委員会で議論するなどした結果、リニューアルの必要性を痛感、2014年8月から現在のホームページになりました。

リニューアルにあたっては「更新作業は自前で臨機応変に対応」、「ワイド画面サイズ」「スマートフォンに対応」という課題に応えるホームページ作成システムを検討しました。

それにより、休診や学習会・イベントなどの情報発信を手軽におこなえるようになり、見やすく、医師・看護師・薬剤師として働きたい方にもアクセスしやすいホームページになりました。特に看護師採用の特設ページでは、アクセス向上の工夫をしています。また、職員のホームページに対する意識向上のために、ニュースの発行や院内ネットワークで更新のお知らせもおこなっています。

さらに地域の医療機関のみなさんに当院の検査機器を活用いただけたらと、検査機器共同利用の特設ページも開設しています。検査予約票・診療情報提供書のダウンロードができますのでこちらもぜひご利用ください。

医局事務室 加川 竜



スマートフォン表示

STAFF「もうひとつの顔」

投げて、打って、走って 気持ちよく仕事にのぞむ

川崎協同病院 内科 医師 **ほりい むつお 堀井 睦夫**

僕が野球を始めたのは小学生のころです。二人の兄にならって野球チームに入り、以来20年弱、下手の横好きで中学、高校、大学と細々と野球を続けてきました。

野球の魅力は一言では言い表せませんが、打者対投手の一对一の単純さの奥に潜む繊細さでしょうか。特に9人のゲームプレイヤーだけではなくベンチを含めた様々な立場の人々が力を合わせて試合にのぞみ、力を出し切った時は何とも言えない充実感を得られます。この点は、病院での仕事にもつながるところがありますね！野球から教わったことは僕にとって大きな財産です。

ゲームとなれば小難しいことを考えず、ボールを投げて、打って、走って、グッバイストレス。翌日心地よい筋肉痛とともに気持ち良く仕事につけます。仕事



血管カテーテル治療中の堀井医師（右）



エースとして活躍

を始めてから中々野球をできる機会がありませんでしたが、昨年からは協同病院野球チームに参加しています。月1、2回のペースでこれからも下手の横好きながら細々と続けていきたいと思っております。ご興味ある方は是非見いらしてください。

私が担当します！

調剤、医薬品の供給などを通して、
患者さんの健康と安全を守ります



薬局長 伊藤 伸也

2015年の1月から川崎協同病院薬局長に着任しました伊藤伸也です。私は前年までメディホープかながわ(旧川薬株式会社)に勤務しており、協同ふじさきクリニックの門前薬局である川崎すみれ薬局や、川崎協同病院の門前薬局である川崎薬局、大師診療所の門前薬局である大師薬局で働いていました。

保険薬局では地域の患者さんと直接話をする中で、どのように接していけばいいのか、どうすれば患者さんの助けになるのかということ日々考えて行動していました。

川崎協同病院薬局での仕事は、保険薬局の時と比べると実際に患者さんと直接話をするケースは減りましたが、日々、処方される薬剤をチェックしたり、迅速な薬剤の

2008年東北大学薬学部卒。2009年1月より川薬株式会社に入職し、その後川崎協同病院に入職。2015年1月より、川崎協同病院の薬局長として着任。

供給、調整を行っています。また、今後は病棟業務を積極的に行い医師、看護師等とともに患者さん中心の医療に力を入れていくための環境を整えていきます。

今年は新入職員も1人入ったので、新人教育にも力を入れ、薬局内の雰囲気をよくしていき、全員一丸となって患者さんの健康を守っていけるよう日々頑張っていきたいと思います。

看護の実践を語り合い交流をはかる ～法人看護師集会から～



第1回川崎医療生活協同組合看護「ものさし集会」が、10月3日久地診療所で開催されました。川崎協同病院の所属する全日本民主医療機関連合会(民医連)では、日々おこなわれている看護の特徴をわかりやすく解説し、どの世代にも同じ認識が図られるように「民医連の看護のものさし」を策定しています。

今回の集会は、「看護を語ろう」が目的です。同組合の看護師は総勢250人で、病院や診療所、介護事業所で活動しています。今回の集会には、川崎協同病院から28人が参加しました。

集会では窪倉みさ江民医連副会長が「民医連の看護と特

定行為について考える」をテーマにした講演をしました。「ものさし」のできた経緯や、全国の同じ組織で頑張っている看護師たちの実践が紹介されました。

講演後は各事業所が現場からの実践報告をしました。

参加者からは、「他職種を含めたチームで実践を交流することはありますが、看護集団で看護について振り返る機会はこの何年もなく、元気になる集会でした」といった感想が聞かれました。忙しくても看護について話し合うことは看護師としてやりがいにつながるもだといった意見も聞かれました。川崎医療生活協では月に1度「看護を語る会」と称した自己活動の会もあります。機会をつくり元気な看護師集団でありたいと八木美智子 看護部長は語っていました。

副看護部長 小森 千絵



看護の特徴をわかりやすく解説



集会では窪倉みさ江民医連副会長の講演も行われた



一緒にならきっと変わる ～地域の中のあなたの居場所でありたい～ 地域活動支援センター 川崎マック

病院は地域との連携がなにより大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、毎回紹介しています。

第11回は「地域活動支援センター 川崎マック」です。
(取材：地域連携室 高橋 靖明 鍵屋 真理)

「地域活動支援センター 川崎マック」は大師公園の近くの住宅街に事業所があります。川崎マックは、アルコール依存症を中心とする様々な依存症からの回復と社会復帰を目指す人たちのためのリハビリテーションセンターです。

対象の依存症としては、アルコール、ドラッグ、摂食障害、ギャンブルなどがあります。活動開始は1992年からで、現在は地域活動支援センターとして川崎市からの補助金や融資からの寄付などにより運営しています。利用料は無料です。

利用者は、30代から60代の男性が中心ですが20代の人もいます。1回の参加人数は10人程度です。

行政や医療機関から紹介されて参加するのをはじめ自分の意志で参加する人もいます。プログラムは、中心となるミーティングが毎日午前と午後に1回ずつあります。

ミーティングでは、病気の正しい知識や依存対象を手放していくステップを講義や当事者同士の話し合いを通じて学びます。いつでも居場所を提供できるよう年中無休で対応しています。また、元当事者がスタッフにいて、自身の経験を通じてともに回復を考えていきます。

このほか生活&運動プログラムとして、調理実習、書道、卓球などを行い、アルコールなどが無い状態で日々を楽しんだり、辛い気持ちを乗り越えるといった練習も行っています。



生活プログラムにとりくむ利用者

また、アルコ

ールや薬のない生活と向き合い社会復帰の準備をするために、地域とのつながりも大事にしている、地域の高齢者の集まりの手伝いをしたり、他の施設とのスポーツ交流などを行っています。



住宅街にある「川崎マック」の事務所

カウンセラーや精神保健福祉士による個別相談や専門機関との連携も行っています。

川崎マックの本来の目的は依存症からの回復・社会復帰ですが、ここが居場所になっている人もいます。そういう利用者にとっては大きな存在になっています。

●川崎協同病院へひとこと・・・

いつもお世話になっています。身体的な疾患にかかる方も多く、理解ある医療機関が関わって連携してくれているので安心です。依存症の方がいたら、ぜひ相談してください。

●おじゃまして・・・

目を見張るような回復（ロールモデル）ばかりではありませんが、「だれかと繋がって一緒に生きている、元気でいることを大事にする。そのために地域のあなたの居場所でありたい」といった、相談員の方の思いに強く胸を打たれました。

NPO法人ジャパンマック

地域活動支援センター 川崎マック

施設長：本島 直幸

川崎市川崎区東門前2-2-10

TEL：044-266-6708

広報系の ひとりごと

毎年恒例の「川崎医療生協ピースラン」が今年も開催されました！平和を願ってたすきを繋ぐこの企画、今年は全体で120人が参加しました。川崎協同病院からも田中久善院長をはじめ研修医の先生など30人近くが参加、それぞれ平和をアピールするTシャツやゼッケンを身につけて、スタート地点のあさお診療所からゴールのふじさきクリニックまで約36キロを走りました。走り終わったらバーベキュー！お肉や焼きそば、豚汁に舌鼓を打ちました。スポーツに食欲にと、秋を満喫できた一日でした。

医局事務室 伊東 匠

